□議員名：藤谷圭子

1　学校給食費の抜本的な負担軽減（給食無償化）に関する支援と学校給食の質の向上について

論点	非喫食者のうち、アレルギーを有するため学校給食を利用できずに弁当を持参する児童への支援について、どのようなことを検討したのか。
回答	県外を含めた他市の各自治体の状況を確認中である。現在、制度設定も含めて、実施に向け前向きに検討を進めているところである。今後、要綱を作成し予算を示したうえで審議していくことになる。

論点	学校給食に関する保護者へのアンケートについて、「内部での検討」の進捗状況はどうか。
回答	アンケートの目的と内容については検討を進めていて、内容はかなり固まってきている。方法については、なるべく保護者等の負担にならないように検討している。

論点	地産地消について、地場産地の食材料の確保はどのように進んでいるのか。
回答	地場産で確保できるかどうかを確認した上で、確保可能な場合には市内産や県内産を優先して採用している。見積業者と連絡を密に取り、この先使用できる地場産物を把握し献立作成計画等に生かしている。

2　定期予防接種事業（RS ウイルスワクチン）の推進について

論点	４月開始時点での接種該当者に対する周知とその結果はどのようになっているか。
回答	４月中に接種期限を迎える対象者２５人対して、面談または電話で周知した。対象者全員に接種機会の周知は届いており、制度を知らないために接種機会を逃した人はいない。２５人中１４人が接種を完了した。

論点	対象者全員に周知するためにどのような方法を考えているのか。
回答	妊娠届提出の時や妊娠後期の面談の機会を利用し周知していく。また、面談の案内文書にＲＳウイルスワクチンのチラシや予診票を入れて送ることも検討している。

論点	予防接種を受ける機会となる妊婦健診の受診状況はどうか。
回答	直近の実績値、令和６年の妊婦健康診査の受診率は８７．４％である。転出入の影響や４０週未満の出産等を考慮すると、実質的には、ほぼ全員が必要な健康の受診はできていると認識している。

論点	実施医療機関との連携が重要と考えるが、実施医療機関との連携をどのように図っているのか。
回答	近隣市とともに、産婦人科医や小児科医等との定期的な連絡会を開催している。また、分娩施設を持つ医療機関とは必要に応じて、個別連携をとる体制を徐々に構築している。既存の連携体制を生かしながら、ＲＳウイルスワクチンと新たな情報に関しては、その都度、関係医療機関に個別に情報提供、協力依頼を行うなどして、市民に必要な情報が届くよう連携をしていく。